

北九州市議及び市職員 エネルギー講演会 報告

平成 30 年 12 月 6 日

中崎信一、金氏 顯



北九州市は新エネルギー、特に洋上風力発電、バイオマス発電に積極的に取り組んでいる。そこで、市民の代表である市会議員、市職員にエネルギー全般、特に原子力について知っていただくこと、エネルギー講演会を地元選出山本幸三衆議院議員の支援を得て中崎が企画した。

講演会は 2 時間、エネ庁原子力広報官と金氏の二人で行った。

1. テーマ

『私たちのエネルギーの現在とこれから～化石燃料は有限です。子供や孫たちのエネルギーはどうなるのでしょうか？』

2. 日時

平成 30 年 12 月 1 日(土) 13:00～15:00

3. 場所

パークサイドビル貸会議室(北九州市小倉北区堺町)

4. 参加者 計25名

北九州市自民党市会議員 9 名(うち女性1名)

市職員 産経局 5 名、港湾航空局 5 名

山本事務所 4 名

(株)新大倉 2 名

5. 講演者とテーマ

須山照子、エネ庁原子力発電立地対策・広報室、原子力広報官

「エネルギー政策の現状と今後について」(注:第 5 次エネ基の説明が主体)、40分
金氏 顯、「持続的成長を実現するエネルギー資源の選択(注:エネルギー会 HP の PPT をベース)、第 1 部 賢いエネルギー資源の選択

第 2 部 これからの原子力～福島第一原発事故を乗り越えて」、75分

6. 質疑応答(市議2名から各1件、計2件の質問)、15分

Q1. 原子力の技術はほぼ確立していると思うが、運転員がミスを犯すのではないか(ヒューマンエ

ラー)という点が心配。福島事故以降の安全性強化対策でその点はどう強化されたか？

Q2. 高レベル廃棄物地層処分に調査を申請した地方自治体にはどのような便宜が図られるのか？調査のために資機材を運搬するための道路整備、地域の活性化のための振興策などは？



7. 講演は分かり易かったか？(アンケート提出15名)

分かり易かった(14)、どちらかと言うと分かり易かった(1)

- ・化石燃料には限りがあり、再生可能エネルギーの大量導入は不確実性がある。
- ・日本の低炭素化、脱炭素化技術の推進の大切さが分かった。
- ・専門家でありながら丁寧な解説で、基礎知識が無くても理解できました。
- ・難しいテーマを非常に分かり易く説明していただき勉強になった。今後のエネルギー政策の方向性を自分なりに勉強したい。
- ・内容が濃いわりに時間が少なかったのもう一度資料を読み返してみたい。
- ・地層処分に係る安全性に関して更に詳しく知ってみたい。

8. 理解度アンケート結果(アンケート提出15名)

講演前: 知識ある(1)、どちらかと言うと知識ある(3)、どちらとも言えない(7)、どちらかという知識ない(4)、全くない(0)

講演後: 理解が進んだ(5)、どちらかと言うと理解が進んだ(10)、どちらとも言えない(0)、進まなかった(0)

9. 主催者感想

自民党市議団議員21名を対象に、山本幸三代議士事務所の支援を受けて講演会の準備を進めた。当初から市会議員は政府の政策に関わることには意識が低いと聞いていたが、やはり出席者が9名と少なかった。同日、若戸大橋無料化式典があり、その影響もあったようだ。穴埋めに市職員を動員したが、問題意識も理解度も市会議員より高いようだ。

二人の講師は講演に慣れており、豊富な内容を短い時間で分かり易く説明し、好評だった。

今回初めての市会議員、市職員へのエネルギー講演会だったが、今回の結果を有力市議の意見も聞いて、今後どのように進めるのか検討したい。

なお、この講演を機に出席者に今後エネルギー情報を適宜入手したいか確認し、希望者にはエネルギー情報の配信をするという手段も啓蒙活動には大事と思えました。

また市職員への講演を更に行うのも良いと思えた。これも出席した職員の方々に問いかけてみるのも一考と思える。